

レッドブル・エアレースの歴史

レッドブル・エアレースは世界最高峰の飛行レースとされているが、その誕生の前には多くの試みの積み重ねがあった。歴史を知って、もっとエアレースに興味をもとう！

レッドブル・エアレースの誕生

レッドブル・エアレースは2001年に、世界に革新的なスポーツ競技を発売しているレッドブル・スポーツ・アイディア・シンクタンクによって、世界最高レベルのパイロットたちが技術を競う新しい飛行レースとして考え出された。このエアレースは、時間という記録と向い合うパイロットたちに、地上から空中に突き出す障害物（パイロン）によっ



Photo by Joerg Mitter

て、速度と同時に正確性と技術力も試させるという画期的な特徴を持つ。そうして誕生したエアレースは、2003年にオーストリアのツェルトベクで行われたエアパワーという飛行ショーで初めて行われ、たくさんの賞賛を得て成功を収めた。また、2004年には3都市をまわるレースプランが立てられ、英国のケンブル、ハンガリーのブダペスト、そして

米国のリノでレースが行われた。そして2005年、レッドブルはエアレースのワールドシリーズを開催することを決め、同開幕年は世界7都市を10人のパイロットがまわり、翌年には8都市を開催地にし、パイロットを11人に増やした。3年目となる今シーズンは、現在、2人の新パイロットを含める13人が10都市で熱戦を繰り広げている。

コラム

日本人パイロットが将来エアレースに挑戦！

日本の曲技飛行チーム「チームディーブルース」の設立者で、同チームに所属する室屋義秀選手（34）が、今年からレッドブル・エアレースのパイロット候補生になった。室屋選手は近い将来に、アジアから初のパイロットとして世界最高峰の同エアレースに参戦することになるとみられている。

室屋選手は18歳でグライダーによる飛行を始め、その後、米

国やオーストラリアで訓練などを受け、エアロパティック世界選手権などの大会で上位入賞した経歴を持つ。現在取り組んでいる飛行ショー活動では、世界各地から出場の依頼を受け、今年6月末から7月の始めにかけてスペインで

行われた、アンリミテッドクラス世界曲技飛行選手権では日本人パイロットとして唯一出場した。室屋選手は、これまでに世界約120箇所で行った飛行ショーを行い、全ての飛行を無事故で成功させている、曲技飛行と飛行スポーツ両方で日本を代表するパイロットである。



Photo by Daniel Grund



Photo by Balazs Gardi

情報提供：株式会社ディーブルース プレスリリース 2007年6月15日

パイロンの開発

時速400キロメートル以上で飛ぶ迫力とスピードが魅力のエアレースの中で、パイロン（円錐型の障害物）はコースを定めると同時に、様々なルールでパイロットたちの技術を試すエアレース独特の障害物。高さは地上から約20メートルで、風速54キロメートルの風にも耐えられるパイロンだが、万が一航空機が触れた時のために、圧縮された空気が入ったパイロンはすぐに割れるように設計されており、パイロットと航空機に問題が生じないように安全性にも配慮がなされている。設計初期のパイロンは円柱型だったが、耐風性を強化するために円錐型となり、それぞれのパイロンはいくつかのセクションに分けて作られ、航空機の接触によって破裂したあとにすぐ修復ができるように改良されている。



Photo by Christian Pondella



Photo by Joerg Mitter